

小林委員（自民議連）

平成 31 年 2 月 27 日
教育長 答 弁 実 録
（ 教 育 委 員 会 ）

（問）豪雨災害によるＪＲの運行停止が高校存続に与える影響について

昨年の決算特別委員会において、豪雨災害によるＪＲの運行停止が、高校の存続にも影響が出ることを質問したところ、教育委員会から「学校と連携しながら、地元中学校等や、１学年１学級規模の高校に設置している『学校活性化地域協議会』に繰り返し丁寧に説明することにより、来年度の入学者に影響が出ないように努めていく」との答弁があった。

ところが、先日、今年度の志願倍率が発表され、安芸高田市の向原高校は 0. 25 倍と、県内公立全日制最低の倍率であった。

この状況について、どのように認識し、どのような対策をされるのか、教育長に伺う。

（答）

向原高校の生徒募集につきましては、昨年の西日本豪雨災害の影響が出ないよう、夏には、教職員が各中学校を訪問したり、オープンスクールを実施するなど、学校の魅力発信に努めてまいりました。

また、昨年 11 月には、安芸高田市が、芸備線の代行バスを利用する生徒に対して、定期代の全額補助の支援を決定したことから、この情報について、校長自ら関係の中学校を訪問し、情報を提供してきたところでございます。

その後も、12 月には学校の魅力を紹介したパンフレットを新たに作成し、安芸高田市内の中学校を訪問し、PR したり、年明けの 1 月には、ＪＲ芸備線の一部運行再開の状況について、関係の中学校に対して情報提供を行ってまいりました。

こうした取組について、教育委員会から職員を派遣し指導・助言を行い、来年度の入学者の確保に努めてまいりましたが、今回の大幅な減少は、予想以上に厳しい結果であると認識しております。

今後、選抜（Ⅲ(さん)）の生徒募集に向けて、向原高校の魅力や特色を発信するチラシを作成し、少しでも多くの生徒に出願していただけるよう地元に加え広島市や三次市など関係市町教育委員会やＪＲ沿線の中学校に呼びかけるなど、受検者の確保に取り組んでまいりたいと考えております。